

●ほんのひとこと

いま再びの「ようこそ、新人さん！」

—未来の「出版」について思うこと

たとえばいま、電車内で「本」や「新聞」を手に見ているひとを見かけることはほとんどない。本も新聞も「紙」にかぎっては売れてはいないのだ。ゆえに出版社、新聞社の売上げ低迷は推して知るべし。

SNS等の普及により他者とのコミュニケーションは簡便になった。興味ある情報に囲まれ、似た考えのひととつながり、考え方が偏る。自己とは異なる考えや価値観に触れる「機会」は失われるばかりである。

書店にある多様な本に接することは、異なる意見があることを知り、幅広い考え方を受け入れる下地になる。少なくとも読書や活字文化を大切に考えるひとたちはいる。そのひとりが弊社に入ったO氏だ。本がもつ魅力とはなにか。熱い想いはどこから生まれるのか。新人編集者O氏に直撃取材した。

■出版界について

刊行点数の多さ、返本率の高さなど、日本の出版をめぐる動向について、ある程度知識としては知っていましたが、実際に現場に身を置いてみて、「こんなに厳しいのか!」と具体的な数字で思い知らされる瞬間がありました。企画を考えながら、採算を合わせようと数字をあれこれいじってどうにもならず、頭を抱えてしまうこともしばしばです。物流の危機と本の定価をめぐる議論が本格的に語られるようになっていますが、編集者一人ひとりと、企画ごとの帳尻を合わせてよしとするだけでなく、どういう価格や部数でどのように販売していくことがこれから持続可能な道なのか、中長期的な目線で業界のあり方そのものを模索しないといけないのだらうと思っています。

■編集者について

編集者とは何か、と考えて、真っ先に思い出されるのが、故・鶴見俊輔の

言葉です。哲学者であり雑誌の編集者でもあった鶴見は晩年、「編集者というのは、人に尽くす仕事でしょう。だから愉快なんです」と語っていました(『戦争が遺したもの』新曜社)。多作な書き手でもあった鶴見が、自分のものではない、他人の言葉を読者に届けることを、より「愉快」な仕事として振り返っていることに、一つの編集者の理想的な姿を感じます。

「本づくり」と言っても、編集者は作者ではないので、仮に自分がいなくてもその書き手は別の形でその文章を世に送り出していたかもしれない。ただ、ほかならぬこの形でその一冊が世に出ることには自分が確実に貢献している。そんなささやかな自負を持てる、「愉快」な本づくりを目指していければと思っています。

■「本をつくること」の面白さ、大変さ
一人出版社の本も大手出版社の本も、対等な商品として同じ土俵に立たされる、というのが、出版の一つの面白さだと思っています。まだ醍醐味や苦勞を語れるほど刊行点数を重ねられていませんが、担当した本が出来上がって店頭に並ぶのを見届けるときには一冊一冊ごとに格別の喜びがありました。

その一方で実際に携わって分かったことは、一冊の本ができるまでの過程には、一読者が想像する以上に多くの時間を要することです。彩流社ではDTPから校正まで各編集者が基本的に一人でこなしているの、作業量もさることながら、頭の切り替えや時間配分には毎回苦勞しています。これを複数の企画について同時進行でこなして、安定した刊行ペースにつなげていけるかが、私にとってまだこれからの課題です。

■なぜ異業種から出版界へ

前職ではNPOで映像教材の制作や市民講座の運営などを担っていました。

●出版協副会長 河野和憲

彩流社

企画ごとに監修者や講師といった外部の方と相談を進めていく、というプロデュース的かつサポート的な役割という意味では、編集職と相通ずるところがありますが、映像も講座も、形は違えど、その瞬間の勝負、という「生もの」的なところがあると思います。

他方、本というのは、作られ方においても受け取られ方においても、もっとスローで、何十年あるいはさらにその先まで形に残るところに特徴があると思います。自分が何かを調べたり考えたりするとき、一番頼りにするのは本で、映像の取材や講座運営をやりながらも、貴重な話が聞けると「本にすればいいのに」と思うことがたびたびありました。より意義を感じる仕事ができるチャンスと思い、転職した次第です。

■2025年以降、未来の「出版界」をどう見るか

1980年代後半生まれの私にとっては、「出版」といえば「不況」の単語が四字熟語のようについてまわるのが常でしたが、それでも、いまさらに深刻な「出版危機」の時代にあると認識しています。ただ、その一方で、「読書」に関する本が相次いで話題となったり、手作り本「ZINE」がブームになったり、と本をめぐる話題は尽きず、本の文化は消えないだろう、という意味では楽観もしています。

イタリアの思想家グラムシにならって、「危機」を、古いものが死につつあるのに、新しいものが生まれることができずにいる状態、ととらえるならば、本の文化の新しい形がいまある出版界から出てくるのか、まったく別のところから生まれるのか、いずれにしても、旧来の存続とは違うあり方が求められているのだと思います。

「総額表示」はしていません
価格は「本体価格」で表示

ISBNは冒頭の「978-」を
省略して掲載しています

▼アルファベータブックス／03-3239-1851
alpha-beta@ab-books.co.jp
https://alphabetabooks.com

●近畿日本鉄道 半世紀のあゆみ 関西編
杉田新・編著
3200円／B5／176頁／並製 4-86598-922-9
C0026／7月29日
●ヒギンズさんが撮った北海道の私鉄
—コダクロームで撮った1950～70年代の沿線風景
ジェイ・ウォーリー・ヒギンズ・写真, 安藤功・解説
3600円／B5／192頁／並製 4-86598-923-6
C0026／8月27日

▼解放出版社／06-6581-8552
hanbai@kaihou-s.com
http://www.kaihou-s.com

●在日コリアンを知るQ&A
—多文化共生への55のヒント
郭辰雄・編著, 川瀬俊治・編著
2200円／A5／000頁／並製 4-7592-6232-2
C0036／7月9日
●授業と学級社会づくり
—人権を基調に
園田雅春・著
1900円／46／232頁／並製 4-7592-2176-3
C0037／8月18日

▼皓星社／03-6272-9921
info@libro-koseisha.co.jp
http://www.libro-koseisha.co.jp

●鉄鋼産業の闇, 鎌田慧セレクション 現代の記録
鎌田慧・著
2700円／A5／312頁／並製 4-7744-0846-0
C0030／7月10日

▼合同出版／042-401-2930
eigyo@godo-shuppan.co.jp
http://www.godo-shuppan.co.jp

●イラスト版システム思考
—子どもの問題解決力が身につく24のワーク
一般財団法人クマヒラセキュリティ財団・編著
2000円／B5／112頁／並製 4-7726-1568-6
C0037／7月23日
●発達障害・境界知能(グレーゾーン)の子の
ライフスキル・アセスメントツール
—子どもの“今”を見える化し、自立をサポートする
梅永雄二・著
1800円／B5／64頁／並製 4-7726-1562-4
C0037／7月30日

▼創森社／03-5228-2410
hanbai@soshinsha-pub.com
http://www.soshinsha-pub.com

●日本のワイン全歴史
—ブドウ誕生とワイン造りの歩み
仲田道弘・著
5800円／A5／498頁／上製 4-88340-374-5
C0077／7月25日
●新ブドウ栽培学—ワイン用ブドウの科学
ジェイミー・グッド・著, 日向理元・訳
6800円／B5／426頁／並製 4-88340-375-2
C0061／8月21日

▼ひとなる書房／03-3811-1383
hitonaru@alles.or.jp
https://hitonarushobo.jp

●雨がふってもわらべうた うたって笑ってわらべうた
わらべうたネットワークうたぼこの森・編著
2400円／B5／144頁／並製 4-89464-313-0
8月21日

▼めこん／03-3815-1810
mekong@bolero.plala.or.jp
http://www.mekong-publishing.com

●プラムディヤ・アナンタ・トゥールとその時代(上)
押川典昭・著
4500円／A5／564頁／並製 4-8396-0343-4
C3022／8月28日
●プラムディヤ・アナンタ・トゥールとその時代(下)
押川典昭・著
4500円／A5／624頁／上製 4-8396-0344-1
C3022／8月28日

▼ロクリン社／03-6303-4154
info@rokurin.jp
https://www.rokurin.jp

●こびとづかん マグネットブック 大生熊図編
1700円／A5変／4頁／マグネットブック
4-86761-033-6 C8776／8月29日

▼現代書館／03-3262-5906
http://www.gendaishokan.co.jp

●【増補版】日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象
足立加勇・著
3000円／A5／336頁／並製 4-7684-5978-2
C0074／7月10日
●国から見すてられる人びと
—障害者・ホームレス・非行少年を排除する社会で
鈴木文治・著
2300円／46／288頁／並製 4-7684-5980-5
C0036／7月25日
●ナチス党员とはだれだったのか
—ナチズムの軌跡と結末
ウルリヒ・ヘルベルト・著, 斉藤寿雄・訳
4000円／A5／352頁／上製 4-7684-5979-9
C0022／7月25日
●48歳、初産のリアル
—仕事そして妊活・子育て・介護
遠藤富美子・著

2000円／46／224頁／並製 4-7684-5977-5
C0077／7月25日
●[増補新装版] 差別されてる自覚はあるか
—横田弘と青い芝の会「行動綱領」
荒井裕樹・著
2400円／46／312頁／並製 4-7684-3612-7
C0036／8月19日
●あしたの朝、頭痛がありませんように
青木志帆、谷田朋美・著
2200円／46／224頁／並製 4-7684-3613-4
C0036／8月25日

▼彩流社／03-3234-5932
sairyusha@sairyusha.com
http://www.sairyusha.com

●飽食と乱打の果ての日々雑記
岡部洋一・著
2500円／46／296頁／並製 4-7791-3062-5
C0073／7月3日
●生きる力を見つけた親子登山
棚澤明子・著
2000円／A5／188頁／並製 4-7791-3052-6
C0037／7月3日
●映画で探る異文化コミュニケーション
伊東武彦・著
2500円／A5／176頁／並製 4-7791-3055-7
C0074／7月14日
●やさしいカタチ
大西暢夫・著
2200円／B5／56頁／並製 4-7791-3056-4
C8736／7月14日
●魅惑のネパール
—ふたり合わせて153歳の旅
原章二、福地恵子・著
2000円／46／140頁／並製 4-7791-3063-2
C0026／7月23日
●物語の反乱
—倫理感覚と文学の意味
ドナルド・R・ウェアズ・著, 小沢茂・訳
4000円／A5／484頁／並製 4-7791-3058-8
C0098／7月23日
●食の国ベールでの最高に贅沢な日々
宮崎泰・著
2000円／46／204頁／並製 4-7791-3067-0
C0025／8月5日
●柳田國男の名著を読む
—変革と保守の民俗学
小野耕資・著
2500円／46／232頁／並製 4-7791-3064-9
C0095／8月5日
●ジオノに挨拶するためにⅢ
—平和と豊かさとの節度を求めて
山本省・著
3000円／46／336頁／並製 4-7791-3068-7
C0098／8月18日
●被爆者・切明千枝子さんとの対話
—「私たちの復興」をめざして
桐谷多恵子・著
1800円／46／208頁／並製 4-7791-3069-4
C0021／8月26日
●センサスが語るアメリカ史
—人口と統治の結びつきがもたらす国家の変容
加藤洋子・著
3200円／A5／284頁／並製 4-7791-3066-3

C0022／8月26日

●森と黒潮と神話の旅

—吉野、熊野、伊勢をつなぐ聖地巡礼

平田毅・著

2000円／46／204頁／並製 4-7791-3060-1

C0026／8月26日

●夢で言いたい放題

—夢幻が人生か……

永峯清成・著

1600円／46／138頁／並製 4-7791-3071-7

C0095／8月27日

▼随想舎／028-616-6607

hanbai@zuisousha.co.jp

https://www.zuisousha.co.jp

●窓際の机

—金久利絵詩集

金久利・絵、著

1000円／新書／108頁／並製

4-88748-441-2 C0092／7月25日

●お囃子のある風景・とちぎ

茂木真弘・著

2000円／46／168頁／並製 4-88747-440-5

C0039／8月1日

▼東信堂／03-3818-5514

tk203444@fsinet.or.jp

http://www.toshindo-pub.com

●国際取引法要説

井原宏・著

3200円／A5／352頁／並製 4-7989-1926-3

C3032／7月8日

●世界は安楽死をどう考えどう迎えるか

—その現状と理論

盛永審一郎・著

1200円／A5／128頁／並製 4-7989-1974-4

C1036／7月31日

●学長室の独り言

—悲喜こもごもの第一期四年間

大塚豊・著

1800円／46／224頁／並製 4-7989-1976-8

C3037／7月31日

▼南方新社／099-248-5457

info@nanpou.com

http://www.nanpou.com

●奄美大島一〇〇の環境文化

鹿児島大学、鹿児島環境学研究会・編

2000円／A5／309頁／並製 4-86124-448-3

C0039／7月10日

●復刻 えらぶよろん民謡辞典

久保けんお・著

3500円／A5／244頁／並製 4-86124-543-5

C0039／7月20日

●幕末幕府の軍制改革と徳川慶喜

岩崎信夫・著

2800円／46／219頁／上製 4-86124-535-0

C0021／7月15日

●奄美 〆幻、の「集団自決」、南方ブックレット16

津田憲一・著

1600円／A5／152頁／並製 4-86124-545-9

C0031／7月20日

●ユタに生きる 下巻

円聖修・著

1800円／46／222頁／並製 4-86124-541-1

C0011／8月10日

●踊らされたくない、あなたへ。なぜに特攻、十五歳

—元予科練の父、元新聞記者の息子によるインタビュー、南方ブックレット18

吉田昭一郎・著

1200円／A5／110頁／並製 4-86124-549-7

C0021／8月25日

●中国蝶類図鑑

青山潤三・著

4800円／A5／240頁／並製 4-86124-548-0

C0645／8月25日

▼南々社／082-261-8647

nannan@ms11.megaegg.ne.jp

https://nannanbook.com

●もう少ししたら被爆の日がやってくる

佐木京介・著

1500円／46／164頁／並製 4-86489-185-1

C0093／7月1日

●雲一つない空

山本洋子・文、切り絵、小田ゆみこ・油絵

1500円／A4変／36頁／並製 4-86489-186-8

C0095／7月29日

▼緑風出版／03-3812-7262

takasu@ryokufu.com

http://www.ryokufu.com

●川崎 在日コリアンの歴史

—共に生きるまちを築いた人びと

山田貴夫、服部あさこ、橋本みゆき、中山拓憲、加藤恵美・編著

2700円／46／224頁／並製 4-8461-2506-6

C0021／7月25日

▼論創社／03-3264-5232

ronsosya@hanmoto.com

http://ronso.co.jp

●逆格差論、名護市長岸本建男と象設計集団が遺したもの

菊地史彦・著

2500円／46／320頁／並製 4-8460-2456-7

C0036／7月3日

●武装闘争前夜

—米軍軍政下、胥吏の記録を読む

安部桂司・著

1900円／46／176頁／並製 4-8460-2457-4

C0031／7月3日

●現代中国のトイレ革命

周星・著、徐青・訳

4000円／46／392頁／並製 4-8460-2499-4

C0036／7月7日

●奇才・勝田重太郎の生涯

—近代日本のメディアを駆け抜けた男

千野境子・著

2800円／46／288頁／並製 4-8460-2501-4

C0023／7月7日

●台湾プロ野球〈CPBL〉観戦ガイド&選手名鑑2025

論創社編集部・編

2200円／A5／204頁／並製 4-8460-2506-9

C0075／7月8日

●桜の園、近代古典劇翻訳〈注釈付〉シリーズ6

アントン・チューホフ・著、内田健介・訳

1500円／46／184頁／並製 4-8460-2497-0

C0074／7月11日

●ことばの劇場

長谷部浩・著

3800円／46／440頁／並製 4-8460-2507-6

C0074／7月11日

●原爆棄民〔増補改訂版〕

—韓国・朝鮮人被爆者の証言

伊藤孝司・著

3600円／A5／418頁／並製 4-8460-2439-0

C0036／7月18日

●京都洛中事件帖 お公家さまの乱、論創ノベルス24

黒木比呂史・著

2200円／46／272頁／並製 4-8460-2502-1

C0093／7月18日

●マダムはディナーに出られません、論創海外ミステリ333

ヒラリー・ウォー・著、熊木信太郎・訳

3000円／46／304頁／並製 4-8460-2485-7

C0097／7月18日

●向かいを見つめる空き家の目、論創海外ミステリ334

J・J・ファージョン・著、小倉さなえ・訳

3300円／46／336頁／並製 4-8460-2460-4

C0097／8月5日

●凜々しき明治女性たち

根岸理子・著

1800円／A5／214頁／並製 4-8460-2455-0

C0023／8月22日

●日本の教会に響く歌、桜美林大学叢書25

松橋輝子・著

3000円／A5／272頁／並製 4-8460-2512-0

C0073／8月29日